

新規事業採択時評価結果（平成25年度新規事業化箇所）

担当課：国道・防災課
担当課長名：三浦 真紀

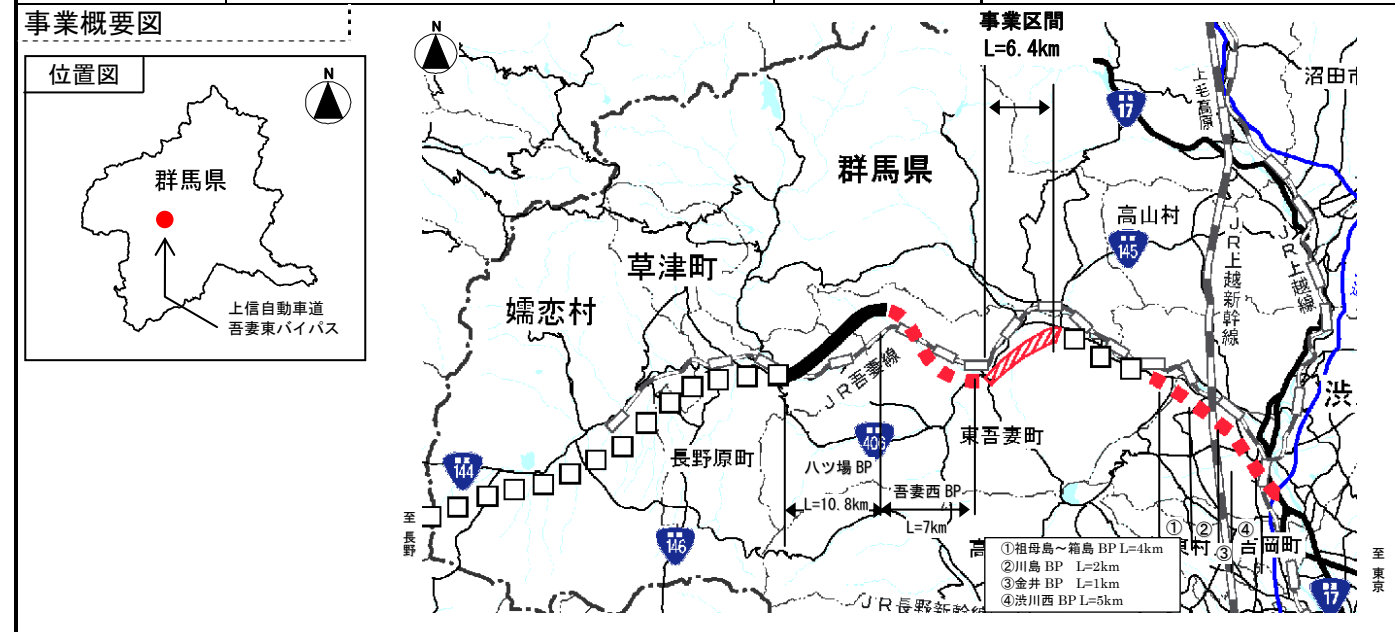
事業の概要

事業名	地域高規格道路 上信自動車道 一般国道145号 吾妻東バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	群馬県
起終点	自：群馬県吾妻郡東吾妻町厚田 至：群馬県吾妻郡東吾妻町植栗	延長	6.4km		

事業概要
上信自動車道は、群馬県渋川市の関越自動車道渋川伊香保インターチェンジから長野県東御市の上信越自動車道東部湯の丸インターチェンジへ至る延長約80kmの計画中の地域高規格道路であり、現在、渋川西バイパス（直轄）、金井バイパス、川島バイパス、祖母島～箱島バイパス、吾妻西バイパスが事業中で、八ツ場バイパスが全線供用している。

事業の目的、必要性
吾妻東バイパスは、
・市街地に流入する交通の転換により、並行する国道145号に位置する主要渋滞箇所の改善
・主要都市間（長野原町役場～渋川市役所・中之条町役場）の移動時間短縮に寄与し、定時性・速達性の向上や生活圏の拡大による地域活力の向上に資する道路である。

全体事業費 約96億円 計画交通量 約10,500台/日



関係する地方公共団体等の意見
渋川市等の沿線3市4町2村の関係首長、議会議長で組織する「上信自動車道建設促進期成同盟会」により長年に渡り強い整備要望があり、平成23年度9月の群馬県議会にて請願が採択されている。
県町村会、地域別市町村懇談会でも、関係首長より早期整備の要望がされている。

学識経験者等の第三者委員会の意見
群馬県内の公共事業事前評価が実施され優先度1（計画的に事業を実施）に位置づけ

事業採択の前提条件
便益が費用を上回っている。
沿線自治体より早期整備の要望を受けており、円滑な事業執行の環境が整っている。

事業評価結果

費用対便益	B/C	2.2	総費用：70億円 事業費：66億円 維持管理費：4.3億円	総便益：156億円 走行時間短縮便益：113億円 走行費用減少便益：27億円 交通事故減少便益：17億円	基準年：平成24年
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=2.0 (交通量 -10%)	B/C=2.4 (交通量 +10%)	
		事業費変動	B/C=2.0 (事業費 +10%)	B/C=2.5 (事業費 -10%)	
	事業期間変動	B/C=2.1 (事業期間 +20%)	B/C=2.3 (事業期間 -20%)		

事業の影響	評価項目	評価	根拠
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策	◎
事故対策		○	バイパス整備により並行する国道145号の事故減少が見込まれる。 【死傷事故率 (H18～H21平均値)】110.4件/億台キロ (現況：国道145号並行区間) 全国平均：約102.6件/億台キロ (約1.1倍) 交通死亡事故：H18～H21で2件発生 (並行区間県道以上)
歩行空間		○	通過交通の転換で、市街地に流入する物流交通等を中心とした長トリップの大型車交通が排除され、周辺道路の現道の歩行環境の向上が期待される。
社会全体への影響	住民生活	○	交通混雑の解消、交通安全性の向上により、地域住民の円滑な移動が確保できる。
	地域経済	◎	吾妻地域内の幹線ネットワークが形成され、速達性が向上することで地域間交流の活性化が図られる。 (嬬恋特産キャベツ搬送等時間圏域増加) (草津温泉等時間圏域増加)
	災害	○	迂回機能が強化され、緊急時の安定した輸送ルートが確保される。 (土砂災害が頻発及び浅間山噴火の危険を抱える長野原町以西へアクセス強化) (緊急輸送路である国道145号の代替機能を確保)
	環境	○	並行する国道145号及び市街地の沿道環境が改善する。
	地域社会	◎	主要都市間の移動時間が短縮し、定時性・速達性が向上する。 (長野原町～渋川市の所要時間：国道ルート9分短縮、県道ルート5分短縮) 第3次医療施設到達時間圏域増加
事業実施環境		○	・群馬県広域道路基本計画（地域高規格道路）に位置付け。 ・沿線自治体等より整備の要望がされている。

採択の理由

事業主体である群馬県が実施した評価結果に基づけば、費用便益比が2.2と便益が費用を上回っており、事業採択の前提条件が確認できる。
また、地域間交流を担う幹線道路、緊急輸送路の機能強化、第三次医療施設へ到達時間圏域増加などが期待される等、当該事業の整備の必要性・社会全体の効果は高いと判断される。
以上により、本事業は平成25年度新規事業箇所として妥当であると考えられる。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。